

昭和四十二年九月招集(第三号)  
第三回市議会定例会入会議録



館山市議会第三回定例会会議録(第二号)

昭和四十二年九月招集

一十月二日(月曜日)

一議事日程(第二号)

第一報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書提出に

ついて

第二議案第四十号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の  
一部を改正する条例の制定について

第三議案第四十号

館山市職員の勤務時間・休日・休暇等に関する  
条例の一部を改正する条例の制定について

第四議案第四十号

館山市中小企業資金の融資に関する条例の  
一部を改正する条例の制定について

第五議案第四十号

社会福祉法人の助成に関する条例の制定について

第六議案第四十号

損害賠償の額を定めることについて

議案第五十号 館山市職員是教条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第四十九号 館山市教育長、諸給与及び勤務条件等に関する

条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十号 館山市長、助役、収入役、給与及び旅費に関する

条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十一号 市道路線認定について

議案第五十二号 館山市一般会計補正予算（第二号）

議案第五十三号 館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第五十四号 請願書

議案

午前十時 開議

議長（吉田勇治郎君）本日、出席議員数 二十六名

こゝより第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。  
本日、議事はお手えに配付の日程表により行ないます。

こゝ際申し上げます。本日、各議案は先日の議会より  
内容説明が終つておりますので、本日はただちに質疑より  
行ないます。

日程第一、報告第四号について、質疑を行ないます。

二番（西村真次君）この説明書の内容について云々するものでは  
ありませんが、一つ疑問がありますので、こゝ際お尋ねしてお  
きたいと思ひます。

支出の面におきまして種目、旅用がだいぶ増大しておりますが  
これはさうつかえないと思ひますが、ただ、八ページ二項、俸給  
給与、交際費の方に旅用されてゐる。これはさうつかえない  
ものでどうか。市の場合にはおそろしく俸給給与と他に

流用することは許さいてないよう記憶しておりますが、

この会計はコーつかえないかどうか。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) くだいまうお話し、市の場合  
は、そのような取り扱いで許さいておりないと私も承知と  
おりますが、ただ土地改良区関係は一つは独立法人でござ  
います。市町村、予算、決算に準拠して  
扱いはさいておるわけでございますが、そういう点につきましては  
取り扱いは、若干市町村と違つて融通性  
があるような面もあるようでございます。

私どももこの点気がつきまうので注意いたしておきまうた  
が、そういう意味でございますので御了承願ひたいと思  
います。

・議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十時十分

休憩

午前十時十分

再開

議長(吉田勇次郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

他に本報告について御質疑ございせんか。

日程第二議案第三十四号について御質疑願います。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇次郎君) 異議なしと認めます。さて本案は原

案通り可決いたします。

日程第三議案第四十号を議題といたします。

二〇番(中村省吾君) 第三項の次に一項を加えるという項の中

特別の勤務に従事する職員については」ということがあり  
ますが、「特別の勤務に従事」とはこういう勤務を  
さすのか、具体的に御説明願いたいと思います。

・人事課長（小沢正治君）お答え申し上げます。

要するに普通、各機関部局における役所職員と  
しての普通でない部門という意味でございまして、駅前  
の観光案内所とか、ユース・ホステル鳩山荘というものを持  
ちますので、そういう関係で一般の扱いで月曜日から  
土曜日までを正規勤務として、日曜日を休むというよりも  
日曜日を勤務日として、その他の月から土曜日まで、月  
にその部門は休んでさうつかえないようなときを休日と  
するということな形を取ることが勤務の内容上好ま  
いという場合、今までその部門の管理者でかような扱  
いはないということがあつたわけでございします。



要するに日曜日を勤務日としてその他をふりかえるということをはつきりさせようという意味でございます。

ニ。番(中村省吾君) そうしますと条例の中で職員が勤務時間が示されておりますが、一週四十四時間と明記されておる。四十八時間勤務もあるのだということとは、勤務時間の中で明記されておる。なお職員が勤務規定の中で月曜日から金曜日までが職員が勤務時間という中ではこれはつきりされておる。土曜日もこうだということがはつきり示されておるけれども現在が条例が勤務時間という矛盾ができてくるように思われるんですが、そういう関係について若干御説明願いたいと思います。

三。番(永井雅彦君) 御説明の中で労働基準法を地方公務員といえども適用になるのだということをお説明

に於て、労働基準法第三十四條です。休日に関する  
項の第二項に、関係すると思ひますが、その項によつて  
四週間を通じて四日、休養日を与えるやうな、こと  
を適用せよと思ふ。

そう、このことからいふと、今、御説明と当初の御説明  
の中で、食ひ違ひと感ずて質問になつては、  
労働基準法、御説明の中で、いかに趣旨というの  
は、大体が交代制勤務を主体といた観念から、あつた、  
四週間を平均して云々ということになつてゐると思ふ。

ところで、今、御説明では、四十四時間勤務者を、  
えとして、日曜日以外ということが、言われてゐるやうに  
思へる。従つて、第三條、次に特別の勤務に従事す  
るもの、は、ということだけをうたつて、それだけでは、  
完全では、ないと思ふ。もう、特別の勤務というものを

明確化する必要があるのではないかと思うんです。  
決して日曜日以外に休日を取ってきつけないという  
ことではない。結構なことです。が、せうかくこういう条例が  
示されて服務規定の中でも第九条にも示されておる  
ようにはっきり明記されておりますので、でき得るならば  
第二条の二と一項の特別の勤務というものは、どういう勤  
務をさすのだということを明記する必要があると思う。  
特別の勤務を第三条に入れた場合には、特別の勤務とは  
何かという疑問が起さる。ちやうゆる場合に特別の勤務  
だといえはそれでいえる。広範囲に利用されるおそれもある。  
従つてでき得るならば本条例の第二条の第三項あたりは  
本来せうば、第一項と第二項は一緒にしてもいいと思う。  
包含させるべきだろうと思いますが、ここに特別の勤務とい  
うものなというものであると明記する必要がある。

第三系に入るならば、一やはり特別の勤務とはどういふことであるとはつきりさせる必要があると思う。この点に対してお伺いする次第です。

人事課長(小沢正治君) この問題につきましては根本的な問題になるわけですが、要するに地方公務員法が労働基準法の適用を相当程度受ける形になった昨今におきまする労働条件等に關するルールが國家公務員法に於ては足りなく、なつてきた。そういう關係で原則的に労働基準法が諸規定を具備した形が公務員法という關係でいろいろ用語とか語義について疑問がふてくるわけですが、例えは今回の日曜日の關係でござりますが、國家公務員の規定は仕方が勤務を要しない日ということになつておりました。それを受けて地方公務員も一律に勤務を要しない日という条例規定をしております。こゝに労働基準法という

ところが休日そうものではないけれども法的にそれに充当する  
部分であるというふうに解釈されておるわけであります。  
そういう関係で労働基準法の一週間に一日、四週間を  
通して四日、休日という関係と日曜日を勤務を要しない  
という規定の仕方は、たまに一致することによって労働基  
準法という休日に該当するから、一応基準法に該当云々  
する場合に休日の設定はそれでよろうという形になつて  
おるわけでございます。従いまして、この日曜日を先ほど申  
し上げましたように平日以上に勤務を必要とする部門に  
ついてだけ一応考えておるわけでございますが、今おっしゃい  
ますようにこれを労働者側より積極的な解釈として特別  
勤務という形で日曜ふりかえを行なうとか、乱用するま  
うな不安は起きないかというところでございますが、十分には  
不公平の起らないようにやけに一般の役所職員として

の勤務条件が、こゝろ設定によつて悪化するといふようなことは当然考えられないわけであらう。それらは十分に配慮いたしまして、本當にどうしても日曜日を常勤的に勤務しなければならぬ職場に限つて、そういう扱いをしない。こゝろに考へて第二項を考へておるわけであらう。

ニッ番(中村省吾君) それはわかつておる。乱用という言葉を強く主張するわけではございせんが、理事者側としても御説明が明々ようないわゆる特別の状況にある勤務ならば、そのことを明々かきして、必要がなからうかということを言つておる。つしな、とそこにトラブルの原因となる。はつきりと明記して、いかに私に日曜日から勤務してませんといつても、そこに在籍を加えなければならぬ。そこに何か起きた場合に、です。こゝろに例ははつきりとあつておくべきだ。

今後特別の勤務というものを次の一項に加えることはさ  
うつかえない。一からば特別の勤務とはどういう勤務だと  
いうことを明記することが妥当ではないかとかように申し上  
げておる。

人事課長(小沢正治君)特別の勤務に關しましては、一応現在  
ところ駅前や観光案内所というところで考えておるわけ  
ですが、一応特別の勤務という勤務場所の指定は規則  
でさうつかえないというふうに考えております。

ニ次番(秋山大三郎君)ただいまニ番議員からお話があつた  
んですが、私はそれ以外の職場におけるものと具体的に申  
し上げますと大葬場や職員でございしますが、これは特  
別な休暇と申しますか、そういうものが与えられてないま  
うに思ふのであります。これは直接従事しておりまする  
職員から自分には休みや日というものはない。一か二朝か

ら晩まで仕事があるというわけではないけれども結局  
 その時間だけ拘束されていなければならぬ。従って自分  
 の自由な日というものはない。こういうことを申しておることを  
 実際に私本人から聞いたのであります。やはり大葬  
 場の職員といえども、これには何らかうこういう休暇・  
 休日等を与える必要がありはるまいか。こういうふうな  
 条例を作るに当たって、この点の考慮がなされておるか。  
 その点について御説明願います。

・人事課長（小沢正治君）大葬場の勤務夫の勤務に関し  
 ましては、従前主管課長といろいろ検討協議は続けて  
 参っておりますが、なんせ人がない。大葬場の仕事に對し  
 ましては、予定も予定が立たない。こういうところに難点  
 がある。十月一日から三十日まで毎日三回ずつあるとか、  
 いつに何回集中するとか、そういう予定が全然立たない。



従いまゝであるかはいかかわらないという待機、時間が拘束されるわけでございます。一応現在、段階では四日、休みを本人の都合によつて取るようにという指示を与えております。その際には、やむを得ず臨時的に火葬の業務を行なえる技術者を採り、その日に間に合はなければならぬ。常時交代で勤務させるといふ人がおられない。そういう関係で難行しておりますが、現在、段階では、日を確実に設定して休日を取らせるといふ形でなくて、本人の都合によつて一カ月を通じて四日の休暇を都合で連絡してくださいます。という体制でございます。

ニ六番（秋山六三郎君）ただいまうお話では、十月からそういう体制を取ったというわけでございますか。

人事課長（小沢正治君）これは従前、そういうふうに連絡してあるというふうに、主管課長から伺っております。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を討論省略  
原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り可決いたします。

日程第四、議案第四十五号を議題に供します。

一七番（江田徳太郎君）こゝ条例に關して異議を申すも  
ではございません。

これに關連してお伺いいたします。こゝ融資に三千  
万円預託託をしてやつておりますが、こゝは年どゝ位になっ  
ておりますか。

商工觀光課長（山田俊康君）九月二十六日現在で百件、  
三千八百八十九万であります。こゝは貸し付け預託金が  
貸し付けられて返済金を差し引いた現在額であります。

一七番(江田徳太郎君)中小企業資金融資の条例の中にもう一つ加えていただきたいということから申し上げる。でございませうが、これは先般予算をいただきました。そして国民金融公庫というものが支展がございまして、本日から開展することになつております。

これにつきまして先般六月に通告質問でも申し上げました。市長さんにもお願いして、中小企業に融資に關することであらう。国庫金融が、館山にございまして、ございまして、これにつきまして、預託をせず、そうして金は、館山市におきましては、一億でも二億でも三億でも、融資を受けらるる制度が、国民金融公庫にございませう。そういう關係で、この金融を育成するために、支展もできたのでございませう。で、このために、私は市役所内に金融部門を作つていただいて、窓口で市民の企

業者に対して相談所というふうなものを作っていないか  
だきないと思っております。

市民相談室とか家庭相談室とかいろいろございますが、  
これが国民金融公庫相談所というものを窓口に作っていないか  
だきない。これが私の念願でございます。

中小企業に融資に関する条例の中にこれを加えて  
いたくないということに関連して申し上げてお願いい  
たいと思いますが、この点、そういうことができますか。御後事  
を願いたいと思います。

商工観光課長（山田俊康君）お答えいたします。

条例に金融相談所等の設置を考慮してはどうかとい  
う御要望ですけれども、条例にそういうものを制定いた  
しませんでも、市としては当然商工行政としてやるべき仕事  
でありますので、現在市市民相談所を利用されても、そ

から新たに市民相談所に金融相談所という看板を掲げなくても、それだけ当然やるべき仕事でございまして、今後十分意を用いてやっていくたいと考えております。

一七番(江田徳太郎君) 今伺いますと条例にはなくてもよろうという事でございしますが、窓口はないと今まで実は申し上げました。償還会というものがございまして、これは解散いたしまして扱っておりません。そういうことがございますから看板でも掲げてやっていただきたいと思います。この点いかがですか。

・商工観光課長(山田俊康君) 市役所にきたとき窓口は市民課と市民相談室というところになっておりますので、市民相談室に金融相談所という看板を掲げて早速にでも商業者、中小企業者より御要望にこたえるように資料等もそろえて相談にあずかりたいと思っております。

・二六番(秋山大三郎君) 第四条の貸し付け限度額のこととでござい

ますが、運転資金、百万円設備資金、百万円でござい  
ますが、一人で運転資金を借りておるもすが、別に設備  
資金を借りることができるか、或いはどちらか一つを借りて  
いる場合にはそれだけかできないか、この点明確にさ  
せていただく、この点伺います。

・商工観光課長（山田俊康君）従前、条例でも運転資金、また  
は、設備資金というところであります。

今度明確化いたします、運転資金、設備資金と  
かえただけであります。

そうして運転資金、百万円借りてゐる人が設備資金  
百万円借りらるかどうか、条例の中では借りられます。  
現実、今まで市長に対して中小企業者が融資申  
請をいたしまして、それを市長は融資審査会にか  
けて、かけておけるか、答申に基いて決定してござい  
ます。

従前の場合、返済能力とか、実績を調査の結果、重複して貸し付けをした実例がなかったようでありそうですけれども、条例上は従前も一応一件五十万というところで設備資金一件五十万、運転資金一件五十万というところで出されたわけでございます。今回の場合も同じように設備資金百万、貸し付けを受けていて、その上に運転資金百万円ということではできません。現実の問題として、いろんな条件等を調査した結果、減額された場合もありますけれども、条例上はできます。

三番(関武夫君) この条例の趣旨には賛意を表する次第でございますが、今までの質問に関連して伺っている点について、思います。過日、御説明で最高限度が五十万であったが、固定化してきたものである中で百万円にするのだという意味のお言葉があつたように思いますが、果たしてそうで

あるかどうか。

百万円になった場合に固定化がなめらぬにいく見通しがあるのかという点でございます。

それからただいま「繰上資金」と設備資金の問題ですが、現実には九月二十六日現在、その中にそういった事例があるのか、そういう点についてお伺いいたします。

・商工観光課長（山田俊康君）資金の一部がある一定の人間にずっと継続的に貸し付けられてある程度見方によれば、固定化しているというふうな見方もあるわけですが、資金の額が小さいために利潤がうまくまわらないということ、額をふやしていただければ十分なめらかに経営もなつたという、ことを再三融資委員会等においても聞いておりますので、額の増額された場合には、こういう資金を借りなくても繰上できるというふうな人たちがだんだん



できていくのではないか。そういうふうには推察してあります。

それから現在まで貸し付けられた三千八百余万の中に設備資金と運転資金重複するものは現在うしろありません。

二番(関 武夫君)第一点の御答弁では私考えが違いますが、質問ですから打ち切ります。

それから五千万が百万になると今まで借りにこたった人もふえると思うんです。

ですから、際は十分なめらぬに出ていた大きなことをお願いいたしますと資金量がふえますから、二倍以上にねると思います。ですから御説明の四倍の八千万で満足しないで五倍の一億に達するようになるように、こつ上とも御努力をお願いいたします。

三番(西村真次君)簡単にも尋ねます。現在三千八百八十九万円の貸し出しがあるわけですが、この中に延滞しているような人

がいはいかどうか。それなり万一夜路不能になったというふう  
なとき市が責任を申しますか。例えば補償責任という  
ふうなものな市では無関係のものであるか。

・商工観光課長(山田俊康君)現在三千八百八十九万の中に延滞  
者がいるかどうかということですが、九月二十六日現在で一名も  
まゝ現在では返済済みになりまゝで、実際にはまゝ  
現在では延滞者ありません。延滞者した場合市が責  
任、条例の中にありますけれども十分の一は市で負担する  
十分の一は果において負担し十分の一は保証協会において  
補償するという制度になっております。

・議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。本案を討論省略  
原案通り可決することと御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。まづ本案は原案

通り可決確定されました。

日程第五議案第四十六号を議題といたします。

一四番(遠山ヨネ子君)社会福祉法人の条例は昭和二十六年法律第四十五号でできておるといふことです。が、当市ではこの条例ははじめてですかといふこととどうして。今まで作らなかつたか。といふことと、それからこの助成はおそらく条例はなくてもこの種の助成はしていただかうけれども、その助成をしてゐる法人のものがあつたらうといふものか教えていただきたいといふことと、それが幾つ位ありますか。それから金額がどう位助成されていまいたか。

福祉事務所長(池田亮山君)お答え申し上げます。

御説明にも申し上げましたとおり、今回福祉協議会が法人化に伴つてこの条例案を提出したわけで、従来はこの種の条例は当市にはございません。それから福祉法人の市

内、団体でございますが、現在でございますが、かいた村、それから老人ホーム、これが現在、法人でございます。

それに加えて、今回八月一日から法人化される社会福祉協議会でございます。従って、かいた村も老人ホームもこれに対する補助金、助成金というものは出ておりません。それから、従来法人でなかった現在までの社会福祉協議会に対しては、市、補助金は三十万出ております。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって、本案は原案通り可決、確定いたしました。暫時休憩いたします。

午前十時五十分

休憩

午前十一時十分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第六議案第四十七号を議題といたします。

二五番(石井正君)ニテ補償につきまて建物並びに物件につきまては常識的にわかるんですが、休業補償の算出と申しますか、私そゝ家々内容をよく知りませんが金額が違ふので、常識的には、営業の内容が違ふということになると思いますが、算出以上、算出の根拠というものがあると思いますが、その点……

それから宿如予算を見ましても、これに関連して事故を起こした消防車の修理とか、その後新しくするというお話を協議会うときは修理というお話うようではないか、

考へ方、は、お現在どうなつてゐるかということについても合  
わせて伺ひたいと思います。

消防長（星野清之助君）お答えいたします。第一の休業  
補償の積算の基礎についてという問題でございますが、  
石井政治様と安田欣次様ということでございますが、  
食ひ違ひがある。四十一年度より所得申告、白色でござ  
います。これを基礎にいたしまして、具体的にいいますと  
石井政治様の方は四十一年度より所得申告が三十九万  
円でございます。月にちかちかしますと三万円になるんですが  
休養が二ヵ月といつたら一ヶ月六万円、それに若干アルブ  
一ヵ月、計七ヵ月というところで線を引いたわけでございます。  
安田欣次様の方ですが、四十一年度より所得申告が年間  
二十七万円でございます。  
月にはおちちと二万三千円になつております。

それと二カ月で四万六千円でございますが、それに若干プラスアルズ一六万円という一まとまりで常識的に考えらるる面でございますが、商売の内容等からいたしましてもユーザーの積み立てた方が妥当ではないかと考えまゝ、それにプラス五万円合わせまして十一万円という線がふたわけでございます。それから消防自動車、その後、状況でございますが、これは一刻も猶予でございせんので、早速手配いたしまして、現在完全に修理が完了いたしまして、いつでも出動できる態勢でございます。大体費用は二十万ばかりかかっております。そういう状況でございます。

・二番(石井輝久君)消防長にお伺いたします。予算案が次でございますので、それらにも関連いたしますが、これは消防自動車による公務上の事故、人身傷害物損事故である。この場合に加害者、すなわち消防車、運転者

に対する処置、また監督、当時者の責任を私とも伺て  
 おうないのでございます。

単に予算が計上され、二に損害賠償、額を定めることに  
 ついて同意を求めておるに過ぎない。その裏に少くも  
 あります。予算外でございしますが、そういう点が明らかにな  
 っていないので、この際お伺いしたいと思います。

公務員もまた人間でございすので、過失がないわけでは  
 ございません。一か一なから、ケガれも公けに対する奉  
 仕者としての公務員である以上、過失はさびく追求さ  
 れなければならぬと思つてあります。が、いかなる処置が  
 打つたか、お伺いしたいのでございます。

また、市民に与えまいに精神的危惧と物質的責任につ  
 いて事故、当時者である運転者のみならず監督者の  
 責任の範囲はどの程度に及ぶものであるか、お伺いいた



いってございます。責任者が市民に対して頭を下げな。

それで過失がそのままになってしまふ。金で済むという問題  
だけではないと思うんです。ときあたかも昨日めらサービス  
強調月間というところでサービスを市長さんが強調されて  
おるわけありますが、かかる傷害はサービスではなく善意  
な過失ではございまいけども、市長の本意と全く逆に  
なります。もちろんこれはサービス強調月間に起こった  
事故ではございせんが、以上お伺いいたします。

。消防長（星野清之助君）お答えいたします。

補償の問題に関連して事故うその後についてどうい  
処置を取ったかということでございますが、私どもこの問  
題につきましては一申上げまいなようにあらゆる機会に  
おいてこれはしっかりとやっていかねければいかめというこ  
で、日常指導、いろいろ督励しておりますが、特に事故直後に

おきまして、全員に對しまして、私の方から事故の状況をかい  
つまんで説明し、合せて今後どうしなければならな  
いかという二つについて十分話しまして、館山市の消防、安全  
という見地から十分基期待できるまうな消防能力で  
いかなければならぬといふことで現在まで参りたいと思ひます。  
今後もしやうなことで参りたいと思ひます。

次、運転者本人、処分、問題と関連しまして、監督者の  
措置をどう考えておるかということでございますが、事故、  
そのものを考えますと、まことに申し分ないことで、一かも  
規模も小さくはございません。従いまして、関係の措置も  
十分考えなければならぬわけでございます。一か、何と  
申しましても、問題の核心は責任の所在があるかない  
かということ。あるとすれば、程度はどうかということになる  
と思ひます。そういう基礎に基いて判断いたすべきこと

がらだと存じております。

その責任者の徴収というようになりますと、これが場合によりまして当該職員が身分に限るということだと思ひますが、そういうことに關係して参ります。そうしますと、まほと慎重にいたさなければならぬ案件ということになるわけでございまして、私もただで判断しかわる向きがあるわけでございます。従ひまして現在敬告寮の方で結論をいそいでおる状況でございしますが、敬告寮の場合にまうては裁判の結果を待つてからという考えでおります。

大体以上でございます。

・二五番(田村源治郎君)損害賠償について、この金額に異存はございませんが、關連して二お聞きなれと思ひます。このような事故が二度と起らないように非常勤分団に對して消防長はどのようなにしているか。市としては大きな

金額である。非常勤金庫。それから、指導方法、改善方法。それから、今度の災害に対して消防は保険をかけてなかつたと聞いておる。これは十分考えなければならぬ。と思うが、これについてお聞きしたいと思います。

消防長（星野清之助君）お答えいたします。先ほど質問でもいささか触れましたが、火災等でございますが、今回の事故につきましても、何り申し上げることもない位でございます。そう、後取った措置ということでございますが、特に非常勤の各消防団の関係はどうしているかということでございますが、いわゆる常勤の市職員として、消防職員に對しましては、先ほど申し上げましたように、おるわけでございますが、いろいろ検討すべき問題もございますので、今回の事故を一つの素材として、これを深く掘り下げ、まして改善すべきところは改善し、こうに伸ばす

べき点がございまして、それを伸ばす。目下いろいろ手を打つて  
ある状況でございます。

非常勤の関係でございますが、若干非常勤の場合と違いま  
して私どもの方が全面的にこれを掌握できる体制にござい  
ません。カー音味は同じだという考えでございまして、先  
般来いろいろ会議、会合がございまして、そう席上において  
こういったことないようお願いいたしますと同時に、訓練等  
も十分になりまして、火災等の場合に対処できるように願  
い申し上げております。また車と保険の関係でございます  
が、これは非常にむずかしい問題でございますけれども、理  
想的には保険をかけた方がよろしいで、確はないかと存じます。  
カー、こういう場合があつてはならないわけで、消防車と  
いうものはたてまえば事故がないという考え方に立っている  
わけでございます。私自身は考えます。そういう観点か

らいますと。これは研究して善処すべき事項ではな  
 かりうかと考えております。

○三五番(田村源治郎君)消防車に事故があつてはならない。

保険は必要としない。だけれども事故があつた。前には神戸  
 の地先で消防車がひっくりかえつた。車を持つ以上、必ずず  
 る事故があると考えなければならぬ。ですから、保険をかけて  
 おけば金銭が少なくて済む。他のものは、保険をかけて  
 いる。

それから消防団の指導方法が完全でないという事とを  
 答弁された。それでは、この事故を起してから、その後改善  
 処置というものが全然あつてない。事故防止ということ  
 に一回の会議をやるわけではない。事故を起さなければなら  
 ぬ。どんな人間でもどんな仕事でも二度と起さなければならぬ  
 改善しなければならぬ。いかなることに目標をおくか。

目標が一つも見当らない。依然として賠償金額だけに  
らわけておる。そういうふうに見える。事故防止のために運  
転技術を確認める。分団の練習方法。どう点が落ちて  
いるかをつぶさに調べてやる必要だ。

私は事故防止の改善方法とそれから保険をかけていただ  
きたいということに要望をしておきます。

・消防長（星野清之助君）私御質問の趣旨をやら食ひ違ひ  
いたしましては、先ほど保険の問題を私に申し上げました  
のは、車両保険でございます。いわゆる巷間言われて  
おりますところの自動車賠償責任保険法との関係につ  
きましては消防車であろうと何であろうと強制的に入つて  
おります。

従いまして分団におきましても全部これは保険に加入して  
おるわけでございます。

車との関係でございしますが、ああいうこともございまいたので  
十月いっぱいを期間とする市民サービス月間におきまして  
私どもの方では特に五つ項目を「取り上げまい」として  
のうち一つに「面々の完全整備」という問題を持ち出さ  
て指導したいと考えております。

・二〇番（中村省吾君）一点だけ伺いたいと思っておりますが、関連的  
な問題にございますが、ただ今二番議員＝五番議員等から  
質問がなされたわけですが、問題はこういうふうなような事故が  
起きて今まで私どもにはつきうと説明がないのか、その原因でござ  
います。いかなる原因でこういう事故が起きないか、先般全  
員協議会の中で聞きまいたところでは、本人の勤務状態、  
勤務姿勢、車両整備、点検事故を起さないうと、車両  
点検も異常がない。当日の運転状況においてもスピードは  
出てなかった、状況も別に悪くない。こういう説明がなされた。



そうしますと、何で事故が起きたか、私どもにはわかりない。  
従つて今後すみやかにこの原因を追求してということであつた。  
そうすると原因を明らかにしてこそ、たゞいま、ニ五番議員も  
申さないうに今後事故防止に相なるわけです。

また事故を起こした当事者の問題にいたしましても、その  
原因がいかにあるかということによつてやはり考えなければな  
らない。いろいろ関連するわけでございますが、この際、  
その原因とわかる範囲内で御説明願いたい。

消防長(星野清之助君)お答えいたします。あの事故の原  
因は一体どうであるかという御質問でございますが、私ど  
もう方でも実はできる限り原因について調査いたしま  
し、また調査いたしておるわけでございますが、なにより  
ああいう事故でございまして私どもにその原因を徹底的  
に追求する権限も能力もはつきりいつてないと思ひます。

真う原因う究明はふけり、警察等捜査当局におまかせす  
 る以外にはなからうかと思ひます。ただ申し上げ得る点は私  
 どもが現在まで調査いたしました状況によりましますと、ちなつと  
 申し上げますが、天候が非常に悪かつた。小雨が降つておつた。  
 あの日一号車を運転しておりましたのが、伊東運転手です。  
 当日自分が運転することになつておらなかつた。運転する人  
 は望楼に上つておつた。かわつて運転し、最初う車より運  
 べて出発したわけですが、いまするが、清水屋、付近で霧雨が  
 ようなもの降つておりましたので、ワイバーを片手ハンド  
 ルになつてかけた。かけたところがかえつて曇るようになった  
 ので、それを消そうと思つたがすぐ前にマンホールがふたが見え  
 て、あれを避けるようになつておつたそうです。それを  
避けてから切るといふことでハンドルを切つた。そうしてすぐ  
 上に手を持つてきて、片手ハンドルになつて止めようといふ

けれども、だんだん車が左側にいくつて大きく右に切ると同時にブレーキを強くかけた。そうすると車が停いてしまつてそのまま右の方にいつて自分ではどうしようもなかつた。車が突込んでしまつたというやうな状況だということですが、これは果たしてのちほどどうなるかわからない。現在まで調べた状況によりますと、そういう状況になつております。どう変化するかわかりませんが、そういうことが一応言えると思ひます。・二番(中村省吾君)原因を追求することが今後、事故を絶滅するといふ一番の要になります。

今もお答えの中で私がお聞きしたところになると、必ずず、運転者は事前に明記されておつて、そう運転者が当日勤務う当初に当たつて自分ゝ担当すべき車両の点検をみずから行なうのだといふことをはつきりおつてやうな、今うお答えの中では運転者がかわつて運転したとおつて

そうだ。運転すべき人間が運転しなかった。私は全員協議  
 会の中でそこで聞いたんですが、自分が本日は、この車を  
 担当するのだということで、その人が現金に点検すると  
 いうことをお答えになつたので、当然、そういうことが履行さ  
 れていなく思う。そういうことが大きな事故を起すことにな  
 がるわけですね。勤務者がきうは、この車を一日責任を  
 持つのだということ。それで、その車を点検するのだ。  
 突然、ぼんときた車が自分へきんにそわない状態がある。  
 従つて、今後、原因追究に當つては、よくそういう車両の  
 状態、或いは当日の天候とか機械的なこともあるだろ  
 うと思ひますけれども、勤務内容において、少なくとも今  
 ような状態が決してないよう、十分注意していただくた  
 いと思つたわけです。

どうも不本意なんです。先般はそういうことを実施してある

ということであつた。突然それがかわつた。そこらに大きな原因もあるのではないかと思われる。人間、精神状態というところが一番肝要であります。従つて今後、そういう勤務内容は十分注意していただくと思います。以上です。

二三番（飯田義男君）この補償金、問題についてはいろいろ考え方はあろうと思いますが、この問題については私は触れません。ただ、こうやって議案に決まれば以上、一応被害者はこれで了解したというふうには私は推測をいたします。ただ内容を見ますと、総額で六十万円、石井さんの被害に額に対して見舞金、二十万、総額二百万に対する見舞金、金と同じく二十万円、その算定方法がどうであるか、知りませんが、やはり適当な方法によつておすになったと思ひますけれども、全部万単位に切らなくとも、正確に算定されるならば、何十何万何千何百何十何円という算出の方

法が適当ではないかと思いますが、相手があることです。から  
 結論的にこういう数字になったと思いますが、こういう  
 見舞金と同額である。これが予算を通した場合にあ  
 とでおやりところは少ないとか不平等がでないかどうか。  
 その確信が得らなければ私はこの案件については結構だろ  
 うと思います。

消防長（星野清元助君）この見舞金等々問題につきまして  
 では前後を通りまして六回位お会いしたと思いますが、い  
 ろいろお話し合いをいたしましてこういう線がふたわけ  
 でございます。実は当初私も何方でも調べたり被害  
 者の方からも書類等出していただきまして検討したわけ  
 でございますが、何回も話し合いをいたしまして納得  
 の上でこの数字を御了承いただいたわけでございます。  
 従いましておやりく額について少なくとも見舞金につき

ましてとかくうことは出来ないと存じます。

・二三番（飯田義男君）これは両者を合わせて一緒に交渉したうか  
個々に交渉したうか。個々に交渉した場合に相手が見  
舞金というものは知らないわけです。従って案件として  
公式に発表されたところ。あそこが二十万もらっておく方  
が二十万円はひどいではないかということが起るは—ないか。  
私に配するうはそれです。

・消防長（星野清之助君）お答えいたします。見舞金について  
は基準がございませぬ。従いまして事故の規模とか被  
害者の方と与えま—たところの事情などというものを勘  
案いた—まして双方二十万という額がふたわけでございます。  
同時に話し合いはいた—ませんで—たけれどもそれ以外の  
方に納得—いただいと判断いた—まして問題がある  
ようなことはなからうかと存じます。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。本案を討論省  
略原案通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り可決確定されました。

日程第七議案第四十八号を議題といたします。

ニ八番(望月照正君)教えてもらいたいことがあるんですが、事  
務改善が施行されて、おおよそ事務改善が完了時  
の館山市長部局の職員は何名であつたかお知らせを  
願いたいと思います。

人事課長(小沢正治君)お答えいたします。昭和三十九年に  
発足したときから当時の市長部局の職員は二百四  
十七名でございます。

ニ八番(望月照正君)事務改善が発足当時二百四十七名という



ことで大体事務改善が終了時には何名であつたか。

人事課長(小沢正治君)事務改善を敷いたときう段階で二百四十七名であつたわけでございます。

改善が終了という時点はないわけでございます。

まだまだ改善を進めなければならぬ。

二八番(望月照正君)そういう意味でなく私いうのは事務改善をしようといふとき何名でおよそのことが事務改善の  
さした時点について何名であつたか。

人事課長(小沢正治君)事務改善を実施しようという段階で入った時点では二百四十四、五名前後の職員に臨時職員が六十名乃至七十名常時おつたわけでやはりそういう形では、まずいということで正規職員だけでまかなうということ  
で改善を実施いたしました関係で事務改善をいいた  
段階では二百四十七名ということでございます。

二八番(望月照正君)そうしますと定数条例の改正というものは、今回のものは昭和三十七年の条例の改正のようになっていますが、書いてありますが、昭和三十七年条例第四十二号の甲の市長事務部局の職員、定数は二百名になっているわけですが、その間例えは三十九年に職員が二百四十七名おちしたということば、定数条例の職員が二百名で二百四十七名いたということばはちつとお伺いしたいと思います。人事課長(小沢正治君)三十九年の改善を実施する段階では、二百四十名という定員であつたわけでございます。二百名というのは自治法改正の四等級以上、正規の職員が二百名、その他の職員四十名ということばで合計正規職員が二百四十名ということになっていると思ひます。二八番(望月照正君)今の答弁ですと二百四十名の定数条例の人員だつた。現実には申しますと二百四十七名、七名の増

員分はどのようなことで認めたりか。それをお聞きしたいと思  
います。

人事課長(小沢正治君) 条例と現員との関係でございますが、原則  
的には望ましくない状態でございます。

ただ考えられますことは事務改善ということが全国に先がけて  
総合的事務改善が実施されたということと、この能力で  
順将来年々増加の事務処理に対して一応こういう改善を  
敷いたあかつきに六万前後の住民を要する市役所機構と  
してどの程度の各部部門の事務量とそれに対応する人  
員配置が安定的になさるのかと、時点でどのような形  
であろうかということとで、いぶ若慮されたと聞いております。  
そういう関係から一応条例における定数の安定の時点と  
いうものを相当考えておいたというふうな伺っております。  
あります。それが、そういう形ではなかなかおさまり切

いはい。予想外の法令の改正、市長の積極的な市民福祉のため、独自の事業の推進によりまして人員の必然的な増嵩もございまして、そういう関係ではこれで安定する、というような形がちょっと望めなくなつたというのが現状でございます。そういうことから、四十二年度当初予算で御承認をいただいておる職員数と合わせた改正をこの際行つて、その後増減はそれを必要とする時点で予算と一緒に或いはでき得るならば、定数を先に議決をいただいて、予算を御承認願うという正規のルールにはつきりさせるべきである、ということとで、今回提案申し上げた次第でございます。

ニハ番（望月照正君）わかりました。もともと好ましい状態にて条例を好ましいように持つていこうという課長さん、御趣旨はよくわかつております。今後はこのような条例に合った

職員数を今後ともお願いしていただきたいと思っております。

・二番(石井輝久君)関連質問申上げます。ただいま二番議員の御質疑中の答弁の中で条例の定員と現員と一七名の差ということでごまいたが、一から七名の超過者に対する財政的支出はどのようなことになさるのか。

それから先般教育委員会予算外支出負担行為につきまゝて質問申上げた際に市長部局におきまゝでは、そのような事例が過去になかったという表明がございましたように記憶しております。その点に関しまして御答弁を願いたいと思います。

・人事課長(小沢正治君)先ほど申上げましたように予算で一応議決をいただいてそのワケの中で操作したということでございます。まして条例の関係ではまことに望ましくない形でございまして市長部局の関係につきまゝでは予算に計上されてお

らな関係職員について、そういう事例はなかったということである。そして、基本的に定数条例のワクの関係と予算の関係で議決をいただいた関係で、条例ははなはだ遺憾な状態にあった。

二番(石井輝久君) 大体了解いたしました。ただ、当時の予算書を見ておりませんで、といったいますと、条例とは別に現員の予算行為をされた。このようにいただいもう答弁は了解いたしました。が、そういうことでございまいようか。

人事課長(小沢正政君) 現員、現給にさらにその年度、増減関係を送り込んで予算を議決いただいております。

二番(石井輝久君) 了解いたしました。

八番(黒川正君) 多少関係連れておりますが、さっきから、課長さんの説明で大体了解はつくような感じがいたしますが、聞いてみますと、比較的定数概念というものが多少うといんでは

ないかという感じにがするわけです。ところで第二条「職員、定数は次々とおりとする。ただし、休職者及び兼任者は定員外とする。レ、この中で休職者は定員外だということなんです。そうしますと休職者がお一人で定員を補充するんだということがあり得る。そうしますと二カ月、三ヶ月たつと休職者が復職する場合がある。そうすると条例の中で休職者が復職した場合には一時的にレは定員とみなすと書いてある。そうすると一時的に定員が調整がでない場合はどんな時点で調整されるのか、お伺いしたいと思います。

人事課長(小沢正治君)休職扱いに関しては非常に例が少ないでございまして、一応現在条例と現員との関係では、ぎゅういっばいで余剰が全くないという形は望ましくないわけですが、常に定数のウケ内で三四名下回っておるということが必要だと考えております。従いまして現在休職者は一人だけになつて

あります。その数の関係からいいますと、四石も五石も続失することはほとんどあり得ないわけで、従いまして休職者が復職するという時点では事前に議会にオーバーするという場合には、ワクワ御承認を願って復職させるといふことが望ましいわけでございます。そういうことに努めて参りたいと考えております。やむを得ず、休会中にそういうことが起こることも予想いたしまして、一応暫定措置としてござる限りの短期間にそういうことをお願いしたいという条例の趣旨でございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は



原案通り可決確定されました。

午前中の会議はこれにて休憩いたします。

午後零時

休憩

午後一時五分

再開

議長（吉田勇治郎君）午後出席議員数 二十八名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第八、議案第四十九号並ひに議案第五十号を一括議題に供します。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）御質疑ありと認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定いたしまして。

日程第九、議案第五十一号を議題に供します。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を討論省略原案通り可決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決確定いたしまして。

日程第十、議案第五十二号並びに議案第五十三号を一括議題に供します。

二番(石井輝久君) 若干御質問申し上げます。

第一点といたしましては、昭和四十二年度の最終予算のめとを。

総額どの位におさへらしておりますか。見通しを伺いたいのでございます。

本年度一般会計当初予算額は十億二千三百十四万九千円でございますが、その後百八十六万八千円の補正を行ないまして、さらに今回第三回といたしまして千三百七十六万八千円を本議会に提案されておるわけでございます。

さらに十二月定例議会、来年三月定例議会におきまして補正せらるる御意思がおりますか、どうですか、お伺いいたします。補正の御意思ありとするならば、大体最終予算はどの程度になるか、おおよその見当をお示し願いたいのであります。第二点といたしまして歳入のうち起債の見通しについてお伺いいたしたいのでございます。

本年度はすでに一億二千七百万の市債を計上しておるわけでございますが、昨年度より五千二百万に比しますと、予算額にお

きまして、すでに本年は二倍を越えておりまして、総予算額  
の一割を大きく上回つておるのでございます。

全体が財政そのものを起債が圧迫してゐると言わざるを得ない  
のであります。今<sup>年</sup>度当初予算の歳入合計から見ますと  
歳入十三款中、そのウエイトは第三位の国庫支出金一億一  
千七百二十万三千円とほぼ匹敵してゐるを見ましても、いかにその  
比重が大きいかが伺はれるのであります。さらに申します  
ならば、昨年度当初予算額におきまして五千二百万でござ  
いまして、起債の實際の年度末の総額は三千百八十万円  
でございまして、同様に伺つております。

して見ますと、今年度の起債一億一千七百万円というものは、  
昨年の三千百八十万に比べますと、約四倍になつております。  
財政全体への起債の圧迫はますます増大してゐるよう  
に思ひます。今後起債をあまりといひますと、わが館

山市の財政は相当ピンチという表現を使つてもいいのではないかというふうに考えます。この点の見通しをお伺いしないのでございます。

次に第三点といひまゝて歳出第十款教育費第六項社会教育費第五目市民センター建設費第十七節百八万円に關連してお伺いしないのでございます。

この予算は市民センターの敷地買収に關連するものと伺つておりますが、それに關連いたしまして隣接地に北条小学校の敷地の移転を企図せらるゝてすでに買収行為に入つておるよう伺つております。

この予算は今次の補正予算には入っておりませんが、北条小学校の移転見通しと財政的裏打ちの見通しをお伺いしないのでございます。

第四点は第七款商工費第一目商工統務費第五節

笑害補償費百三十七万円についてでございます。

たまにまた去年の海洋監視員を勤めておりまして学生が深夜酒に酔いまして無免許であるにもかかわらずオートバイに同僚を同乗させて運転しけんかう仲裁に出かけようとしてその途中交通事故にあつて死に至つたと伺っております。

先に行なわれまして説明にりますと動機が善意でございましてということでございます。死んだ者に交通法規酒酔い運転並に無免許運転の違反行為が抵触していかないというふうな見解が表明されたように伺っております。また公務とみなすべきであるという御意向も明らかにされたのであります。もう一かりとするならば公務に従事すべき者に酒を飲ませた責任者はどうか、その責任がだれにあるのか。この点も伺いたいのでございます。

また、無免許運転を黙認した責任はどなたにあるわ。もし  
大務とするならば、学生を死に至らしめた行政上の責任が追  
求されなければならぬ。ではありますまいか。昨今、交通戦  
争という言葉が流行している状態でございます。

学生をして、酒酔い運転をいまいめ、無免許運転をさへす  
ることができれば、死に至るようなことはなかった。こういふ今次  
議会に提案されております追加予算、計上もなかった  
はずであります。この責任、及び範囲はどうなるか。  
また、どのような処置をなさいたか。温情をもって聞かれます  
信賞必罰の体制を要望いたしまして、もって市民の付託  
にこたえらぬことを望みます。この点、市長さん、御答弁  
をわすれたいのでございます。

・財政課長（長谷川公治君） 予算、最終的な規模について  
お答えいたします。現在、うしろ、おむを得ず、自後補

正さなければならぬというものが先人の人事院勧告に伴いまして職員給与改定、これは約千四百萬弱になる予定でございます。この六五〇程度が交付税によつて補助金のようなところで参入することになっております。それから先に発生いたしまして千零九対策費と申しますけれども若干の扶助費、これは支出が約年間七百萬程度になるのではないかという予想をいたしております。その他に事務的な経費で約五百万程度のもうが、これは小さいものでございますが出てくるのではないかと。そういたしますと二千六百万程度の補正をいたさなければならぬのではないかと。このように考えております。

なおその他に現在交渉中でございますが、市民センターの土地の買収費について起債が認められるということになりますと約一千万程度の額が重ねられますので、補正いたさ



なければならぬというふうに考えております。

こゝに對しまして賤源關係では先づ人件費につきまゝでは  
六五%程度のもうがくるうではないか。それに國庫補助、そ  
れから不確実ではございますが、例年実績からいえますと  
競輪關係で一千万以上の伸びがあるうではないかというふうに  
考えておきまして大体二千六百万程度が賤源に見合せる  
ように考えております。

それから起債の見通しでございます。

御指摘のとおり昨年

度は二千五百万ばかり減額をいたしまして、これは市民セン  
ターの建築關係に伴いまして減額をいたしたものでござい  
まして本年度九千四百万ですが、市民センターの關係の起債  
がほぼ内示を見ておりますので、起債關係につきまゝでは  
現在予算に計上いたしております額は減らない見通しで  
ございます。こゝはさき申上げました市民センターの土地

買収費につきまして起債が認められます」と、約一千万程度がつくという見通しを現在持っております。

そう他に災害関係が特に起さなければなおよそ大体三千万程度の追加でいのように考えておりますので、そうしますと、大体最終予算額が十億六千万程度に落ちつくのではないかと、いう財政計画でございます。以上でございます。北条小学校の建設に伴う財政計画でございますが、まだ正式な設計書等もできておりませんが、大体私も考え方として現在実施しております作業は、四十二年度におきまして開発公社に委託して土地の買収、造成を行なっていく。これが大体三千万程度ではないか、建築費につきましては現在設計書ができ上がっておりませんので、正確な数字では申し上げられないと思いますが、大体土地買収費を入れて一億九千万程度になるのではないかと、いうふうに考えます。これを二カ年

継続で行ないまして、その旨の起債、補助金等もつきますので、  
それに一般財源を加えまして実施の計画でございまして、  
いずれにしましても設計書等ができておりませんし、設計金  
額等もまだわかりませんので、おおよそそういう構想で  
進めております。

・商工観光課長（山田俊康君）専修大学生夏季監視員、事故  
についてでございますが、飲酒運転であつたということです  
飲酒運転ではございませんで、無免許運転は確か  
ですが、飲酒運転ではございません。この点については、警察  
当局と病院の医師等も調査いたしまして結果、全然飲  
酒はいたっておりません。

なお、無免許運転を黙認したということですが、現実  
に無免許を黙認したということもありませんし、実際に  
無免許運転で事故が起つてはおりますが、免許証を持

っておりますが、七名おかりまして、車がかぎは免許証を持っておりますが、七名おかりまして、車がかぎは免許証を持っておりますが、副団長鈴木正義というものが、管理責任者になりまして、その許可を受けなければ使用できないという体制を取っております。再三にわたってそれについては、嚴重に言い渡してあったのでありますが、当時海水浴場が治安維持というふうなことから、突然飛ぶおちたまま管理責任者において、車にかぎを付け放りてあったというふうな事実から、このような事故が発生したということでも、ことに申し分けなく思っております。

なおそれに対する措置といふことは、私も十分に責任を痛感いたしまして、団員を集めるとともに、そのようなことがないようにということで、嚴重にまた交通事故ばかりでは、なく、海岸の治安維持、そのものについても、警察官にた

ちに連絡して敬告察官う応援があつたのちにおいて敬告察官むら応援を求めらるゝときになつていくやうにということも当初からこれは申し渡してあつたんですが、より強くそのことも合わせて伝えなうな次第です。

・市長(本間譲君)なだいま山田課長が答弁したわけでございますが、専修大学う学生は勤務時間にやつたわけではない。けんかが始まつたということで大急ぎでいってやつたんですが、無免許であつたんことはそのとおりでございます。こゝにつきまゝでは私はならなければいけません。勤務時間以外だから見舞金程度で済むのでは、ないかというふうに見えるんですが、果う方に伺つたり人事院ですが、伺つたら公務補償ということでは処置しないとやはりあとでまずいというまうなことで千円分の補償をする。こゝういうことでやつたわけでは、なかなかこゝういうことはこゝうとだけではむづかしく

て、そういう方面の専門家をわざわざわけなければあつて失敗することがあつては困るうで、慎重を期してやつた結果、公務補償というやうなことが妥当だということ、で百万円を出すことにしたわけでございます。

。ニ番(石井輝久君) まず第一に、私、先ほど発言中、飲酒云々、ということがございますが、ただいま山田課長の御説明によりまして、そういう事実がないということでございますうで、飲酒云々の発言は全面的に取り消します。

質問の第一点でございますが、ただいま財政課長より御説明によりますと、最終的には約十億六千万というお話でございますが、それに対する裏打ちについてもいろいろ御説明がございまして、なお起債は今後約一千万、こういうお話でございます。並びに北条小学校の移転に要する今後、見通しにつきましてはよくわかりました。

昭和四十二年度一般会計の最終予算が十億六千万前後というお話でございますけれども、また起債も一千万であろうという御説明、これはまず、動かない見通しでございますけれども、又聞するところによりますと、非常に多額の起債をおおがなければならぬような事態が発生しているやに伺っておりますが、そういうことは十億六千万と関係ないのか、その点をお伺いいたします。

次に第三点の問題でございますが、市長さんの御説明によりまして、万やむを得ず、公務とみなして補償金を支払う、という御説明でございます。

その前に御質問申し上げました点でございますが、これは行政上責任者及び範囲がないというふうなつまり死んだ当人以外責任者がいないのであるというふうにも受け取れるんですが、これは一体監督上の責任がないのか、あるとす

いば、その程度まで責任があるのか、お伺いしたのでございます。これは全然、当市と関係ございませんが、数カ月前に千葉におきまして、警察機動隊員が無免許で車を運転して幼児を殺傷したことがございます。

ただちに警察本部長はみずからいまいめて、みずからを処分しております。また最近におきましては、例が違いますが、千葉市におきまして、不祥事が起こりますやいなやみずからいまいめて、みずから処罰しております。

本件に関しましては、責任者の処置をいかなさうなかな、そういったこともないま伺つておる。範囲ではお答えがなかったようでございますが、この点もう一度お答え願いたいと思ひます。以上。

・財政課長（長谷川広治君）起債に関連しまして、起債を増額しなけいばならない、特別的な財政需要があるかというふうな



御趣旨でございますが、現在、時点では、起債を大幅に増額  
しなければならぬという財政的な需要は、一般会計には、先ほ  
ど申しました市民センターの土地買収費の一千万以外にはご  
ざいません。

商工観光課長（山田俊康君）担当課長として十分その責任  
を痛感しております。なお、市長から、嚴重な注意等  
もありまゝなので、自分自身で謹慎というふうなつもりで  
一生懸命職務に精励しております。特に外部に発表する  
ような戒告処分或いは減俸処分というものは、今回に限っ  
て行なわけておりませんで。

市長（本間譲君）専修大学、学生は職員でもございませ  
ん。職員がそんな場合については、私は、むしろ、市長が責任  
をおわなければならぬと思います。すけれども、一時的、臨時  
に雇われてきたものでございまして、いかにも個人的に、さうい

ことをやうたんですから、市長の責任というところでも私は考  
えておりません。一カーながらなくなつたりしてありますか  
ら、それに対してはできるだけ補償をして上げようという  
ことで、いろいろ調査の結果、百万円が妥当であるという  
ことでそれによつてつぐないをいたしなわけでございます。

ニ番(石井輝久君)ただいま再質問、御答弁中、市長さ  
んにまで責任が及ぶ範囲がいろいろとは毛頭考えておりま  
せんので、いささか他市に起りまして引例が度を過ぎて  
おたように考えます。責任が及ぶ範囲が市長さんにまで  
いかないことは常識的にも行政的にも事実でございますま  
じう。一カー、市の雇ひ上げに学生であらうとなかろう  
と監督者があるわけでございます。ある程度責任が及  
ぶ範囲というものはあるのではなからうかと考えております  
それが商工観光課長さんにまで及ぶものであるか、或いは、

そうではなくて、また別に責任者がおるものであるか。いずれにしても、責任者がなくて本人だけが死者だけが責任者であるというような考え方はどうかと私は考えますが、一かーなから、今、商工観光課長さん、御発言中にもございまして、みずから職務に精励されて謹慎しておるということも聞きまして、この点に関する私、質問は終わります。

次、第一点の予算でございますが、再度にわたる財政課長さんのお話でわかりました。ただ起債の点でございますが、一般会計におきまして、現在起債をとおく緊急案件がないうでございます。なるほど、そうとあり、かもしれません。一かーとするならば、特別会計におきまして、起債をたがなければいけないような財政上の問題があるかどうか。再度お伺い申し上げます。

・助役(小虫武男君)特別会計の關係でございすが、こゝも

今うところ改めて起債をこれから求めるといふものはござ  
いません。今石井議員からう御質問は或いは三市町村  
の組合水道あたりをお話になっているかと思いますが、これは  
特別自治体である組合立が処置すべき問題でございま  
す。そう組合で或いは今年度、起債はもちろんできない  
と思います。またる年度における不足分について、起債の  
増額ということは今後、問題として組合としてやらなければ  
ならぬというだろうという予測はつきますが、これは市としては  
直接の関係がございません。

・二番（石井輝久君）再三にわたる御質問が恐縮でございま  
す。ただいま、助役さん、御説明で大体わかりました。  
全く御賢察のとおり、私、質問は、そうは申しませんで  
し、たけいども、ただいま助役さん、御発言中にございました  
館山市、富浦町、並びに三芳村、三町村の組合の事業

に關連する今後、起債の見通しということでございます。全く恐縮に至りてございますが、これは、この補正予算とは直接關係ないんですが、起債をおおがなければならぬという行為は当然、熊本市民にも重大な關連を持つことになると思ふのでございます。今年度果してその起債がおおげるかということとはわかりない。或いは明年になるかもしれないということでございますが、そうおおよそ金額はいかほどでございますか。再度お伺いたします。

・助役(小出武男君) これは今ここで正式な数字を申し上げるわけにはいけません。組合議会の方で計画変更を主として設計段階でございます。うでは、つまり、この数字は組合の方でもまだ出ていない段階でございます。

推定するところ、技術者より推定は約二億五、六千万位になるのではないかと。うに推定されます。今申し上げますように

これは一にかかって今後調査にまけて若干のふいがあると考え  
えております。

・二番（石井輝久君）ただいま御説明ですと、なるほど計画変更  
の途上にあるので、確たる見通しはつかない。推定二億五  
六千万というお話ですが、館山市全体、最終予算の見  
通しが約十億六千万、これは館山市の一般会計とは全く別  
個でございますが、組合会計でございますが、今後さらに  
二億五、六千万比較して見ましても、そう占める金額の比  
重が非常に大きいことがわかるわけでございます。

ただいま助役さんの御発言中にもございまして、計画  
設計変更の途上にある。こういうことでございしますが、  
計画変更に至るまで、堅固の中で地質調査の問題  
にさか上つてくるのではないかと思うんですが、地質調査の不  
備の原因というのはどこから取られたか。この際担当課長さん

にお伺いいたします。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午後二時三十分

休憩

午後二時七分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。

確かに御指摘のように結果としては精密な調査でなかったというふうに私も考えるわけでございます。一か一かながら、

調査段階として手段方法はこうしてやらせておいたということでございますが、一か一かながら、予想以上いろいろな専門家等々その後調査によりまして、予想以上に若

盤がみだれておるといふ地点が数カ所あったというふうな  
ことからいたしまして特に河川法の改正等に伴ひまして  
建設省の若盤の検査を受けたりしてなければならぬ  
といふことで、いろいろ調査をお願いしたわけでござ  
います。そういふむずかしい若質の地点でございます。予  
二三指摘をしまして再調査の要求を受けたりでござ  
います。それで調査をする上におきまして、今後ある程度  
の期間、日数を要するといふようなこと等やらいたし  
まして、当初調査設計いたしまして、点を變更せざるを  
得なくなつてきておるといふのが現状でございます。御  
了承願ひたいと思います。

・二番(石井輝久君) ただいま吉田課長さんより親切な答弁がご  
ざいます。了承いたしまして。

今後の早期完成を望みまして私の質問を打ち切ります。



議長(吉田勇治郎君)ただいま二番議員君より先ほど御発言中、「飲酒彈劾」の発言は山田課長の答弁により「飲酒彈劾」でなかつたことが判明したので、この発言を取り消したいというところでございます。この取り消しに御異議ありませんか。(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

二大番(秋山大三郎君)私は十款の教育費につきまして若干御質問申し上げたいと思つております。

これは予算に直接関係するということよりも、これに関連して御質問申し上げたいと思つてございます。

当初予算におきまして、これは前年度、前々年度におきましても、市長の意思が義務教育であるところから、小・中・高校のPTAの負担軽減、ということと大きくかかづらぬまゝ、年々増額し、かつ四十二年度におきましては、四十二年度より

実績を基礎にして、確実なる数字をつかんだ上で、確かに四百八十万か、五百万足らずの予算措置がなされて、そうしてPTAの方からいわゆる学校運営上、経費を使わないようにという趣旨のもとに、そうして予算が組まれないか、ように思うでございますが、その後におきまして、市内の各小中学校やPTAの会費の状況とか、或いはそれに対してどうような指導がなされておるか、という点につきまして、御説明をたまわりたいと考えておる女才でございます。要するに負担の軽減がどうやうに行なわれておるか、ということでございます。

次にもう一つお聞き申し上げたいところでございますが、実は西岬の小学校に玄関及び校長室を作った。このときに或いは、私に聞き違ひであるか、もしもせんが、反聞するところによりますと、各戸民から一戸当り五百円位の寄付を取

つたようなことが耳に入つたのでありますが、市長が日ごろ申し  
ておきますところの義務教育負担軽減ということからいた  
しますと、これは当然、市費をもつて全額まかなうべきもの  
でありまして、こういうことがあつたかどうか、その点も御説  
明いただきたいのでございます。

本日、新聞を見ましても、銚子におきましては運動会に寄  
付を受け付けるような受け付けを全廃して、そうして運動会  
をやった。こういう記事も出ておりまして、これは各地におきま  
して又兄の負担軽減ということが行なわれておりまして、館山市に  
おける義務教育費、又兄負担軽減の指導。そういう  
措置がどのように取られておるかという点について特に教  
育長さん、御意見をお伺いいたします。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩——（休）

午後二時十五分 休憩

午後二時三十五分 再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。  
 教育長（押本禧祝君）も答え申し上げます。

市長さん、又兄負担軽減の問題についてうことですが、これ  
 につきまゝでは、年度始まる前と年度当初に校長会とPT  
 Aの会長さん、会議をお願いいたしまして、特に国で公費  
 負担軽減というところにおきます。地財政、人件費、或  
 いは校舎の修繕、修繕というものはやてはならない。こういう  
 ことでございます。PTAの中、そういう内容を含まない  
 ように、さらに市費として、たくさん、四百万というたくさん、  
 増額がございまして、PTAの会費を減らすように、  
 こういうことで六校位、ところが、現実、二十月、三十月、

位減らされております。

さらにPTAの会費の中には一応運営費と後援費、こういう二つの項目を大別してあるわけでございますけれども、後援会費に入るところのものは市で出すので、その項目はなにするまうに、こういうことを申し上げてお願いしてまいりました。でございます。一か一教校四月に発足しましてPTA会費の中にそういうものがありまして、改めてその後校長さんを通しまして大部分の学校が後援費がのせてないというところと上げたいということとで、談合いたしまして、現在は後援会費という項目を全部更正してございます。以上のようなわけで市長さん御趣旨にそう面でも学校長並びにPTAの会長さん、会合等を通しまして努めているわけでございます。なお、西岬中学校の玄関及び応接室のことでございますが、こより始まりは新山校長さんを

柳えて、自決かり迎えにわけてございます。

こゝ見送りに自決り役場の方々とPTAの方々が送つてきたわけてございます。そのときにお待ちしている場所等がなくて職員室の先生方が年度当初のときとちがひなところにお迎えなというふうなことでPTAの方々が何とか校長室がほしい。玄関がほしい。こういうふうなことをお考えにならうとて、そうしてひそかに特殊寄付をつくらうとある程度になりましてそこで教育委員会、市の方に玄関と校長室を是非作っていただきたい。こういうことでこちらにわけてございまして、そういうことで特殊な御寄付をいただきたつと玄関と応接室ができたわけでございます。その登壇を申し上げて御報告にかえる次第でございます。

一五番(石井正君)ニニ伺います。最初に一六ページ保育所の措置費返還の件につきまして伺います。一



でございます。

私は千葉県知事がこちらに見えた際にもこの警備員配置について要望申し上げたわけですが、現在に至りますと全国的に全面的な警備員を置きまして日直宿直を廃止している市が非常にふえているわけでございます。今回は文部省の指示に従って館山もこれに従ったという結果になっておりますが、館山市といえども前回私が質問した際に教育長、御答弁はただいま考慮中である近々というふうなお話がありました。これは議事録をひもとけば明らかであると思います。

ただいま館山市としてはどんな独自の構想を持っておるか、さらには警備員の全校配置という問題につきましてもどんな計画があるか、この点についてとお伺いいたします。次に二四ページの中学校費の中の十四節西岬中と二中の借地



問題でございますが、これは市長さんにお伺いしたいと思っていますが、学校が校地を借<sup>賃</sup>ておられる地主さんがいろいろあると思います。聞くとところにありますと市に買っていたかきたいというようにたことで申し出てあつた方が多いものに聞いておりますが、市といつて、まゝ非常に安い料金をで借りておるように思ひます。で、そういう話が出るんですが、市として今まで買ひ上げたという話は聞いておりませんが、今後、お買ひ上げになる気持ちがあるのか、或いはその見通し、どのような点についてお伺いしたいわけでございます。

次に五ページ社会教育費や市民センターの仲の問題でございますが、ここには十三節委託料で監督委託ということ、五十万出ておりますが、私、建設委員のひとりでございます。ただいま、工事が非常に進んでおるようでございます。

一、建設委員会はその後、いっぺんも開かれておらないので

その経過についてわからないのでございますが、建設委員会を開く必要はないのか。これが一つと。三つ、四つ、監督というふうなものを委託した経過。そういう点に触れて御説明願いたいと思うわけです。以上。

・福祉事務所長（池田亮山君）も答え申し上げます。まず最初に年度でございますが、四十年度でございます。

次に返還の内訳でございます。四名分、措置費が二十万三千八十円でございます。なお、その中から、ここにございます。処置負担金返還金、四万四千五百五十円。これを差し引きますと、十六万八千九百三十円という数字でございます。

これが返還になるもので、そのうちの八割が、十三万五千四百四十円。これが国に返還されるわけでございます。十六万八千九百三十円の一分に相当する金額、一万六千八百九十三円が県に返還される。残りが市に返還されるわけでございます。

・教育長(押本禧逸君)宿日直、問題についてお答えいたします。  
警備員というような問題が数年前から宿日直の廃止  
という組合からう問題がありまーたときに出ていてすでに市川  
船橋方面では警備員の配置をーているところもあるわけ  
でございすが、本市におきまーては、そまて到達しません。こ  
ちに今年は特に強く全国的な宿日直問題を展開いた  
しまーて教職員は月いっぺん、日直と週一回の宿直を  
行ないますけれども、他は労働基準法の基準に従つて  
辞退しない。こつうことが果て教育委員会にも或いは各地  
方の教育委員会にも、そよよけり立場で要望等がある  
わけでございします。

こいは文部省でも大きく取り上げて果て教育委員会でも  
取り上げ、私どももその種の中て考えておるわけでござい  
ます。が、月一回の日直と週一回の宿直は自分たちは勤

務するということでございますが、大規模学校では問題はないわけでございますけれども、先生方の少ない日直は主として女が先生がやっていたわけでございしますが、女が先生やれないところでは月いっぺんという日曜日が三回か四回、祭日がございすると五人位いないとだめだが二回やらなければならぬ。宿直の方は週いっぺんでございますから、七名以上の男が先生がいなくてと欠く。こういうことでございまして、本市の実情では日直が不足学校が六校宿直が不足学校が八校あるわけでございします。こゝろについて、果て教育委員会ではその対策として、一つに今までは明治何年以來教職員が宿日直をする。こういう姿勢でございしますが、こゝ機会に用務員、学校の使丁でございしますが、こゝ人にも週いっぺん、月いっぺん、日、宿直をやらせることができる。こういうことが

一つの考え方、それでも足りない場合には、市で非常勤の嘱託として採用して、日宿直の代行をさせることができる。

こういうことになり、さらには文部省でも、そういうことをおっしゃるわけでございますが、学校で管理保全に支障がなければ置かないことができる。こういうことが最終的に言われておるわけでございます。――私どもは、今ただちに学校で管理保全に支障がないという段階にきておりません。で、用務員でも足りない学校がございまして、非常勤の嘱託を先生方に近所や、或いは地区内の人々を採すように、そうしてそれを市で非常勤の嘱託として採用して、これに充てる。こういうことになるわけでございます。

足りない非常勤の嘱託も、これにつきましては、そう前に日直宿直の先生方がおるものと、つては、現在、一日の日宿直

は四百二十円でございまして、それが国から半分、県から半分、こういうことで負担されてゐるわけでございしますが、今度の非常勤、嘱託は市町村、教育委員で採用するわけでございまして、国から補助はございまして、九月県会で四百二十人、三月まで、人数倍、たまたま予算化をしまして、市町村、代行分を非常勤、嘱託を採用する学校に補助金としてくださる。こういうことになつてゐるわけでございします。

そして、もうひとつでございまして、現在代行員、不換の学校ではまだ発令はしてありませんが、採用してゐる最中でございますが、警備員につきましては、現段階では、先生、宿日直と非常勤、代行員というところで、教備員のことまで今、ところ、考えておりません。

市長（本間義君）学校その他市で借りてゐる土地を買収す

る考えかどうか。こういうお尋ねうまいでございすが、  
現在一件申し出がございまして、これは代替地をやるという  
契約が結ばれておるわけでございします。それに対して  
現在市の地所をその方が使用してゐる。貸してある。  
それと交換的なことでやろうと思つて手続きをしてござ  
います。その他のものには、きまゝでは別に申し出を聞いて  
おりませんが、今、館山市の財政の面からいまして、これを  
買収するということとは、ちよつと考えられないわけで  
ございしますから、適正な地代を払つて、貸していただくとい  
ふ、こういう考えでございします。

・助役（小出武男君）建設審議会についてお答えいたします。  
建設審議会の方は先般、入れ及び執行について、  
御協賛も経まして、そのとおりになつて、進行中であらう  
でございます。従いまして、諮問する案件がないわけ

でございますが、ただ、ときに開催して現場を見ていただくというにも必要があります。とりあえず、今のところ諮問の内容がございまして、開催をしております。もう少しありますと物品の購入とかその他のおはかりする点がお出てくるように考えておりますが、その時点で招集しておはかりしたい。かように考えております。

一五番(石井正君)第一点につきまして一応了解したんですが、四十年分というお話で四人分、そうしますと、四十年分が再度返還がある。こういうふうな考えていいかどうか。

それから二番目の宿、日直の問題ですが、これは敬告備員と申しますか、嘱託や代行人員でもいいわけですが、深く考えますと責任問題があります。で、名前がかわれば内容もかわってくるかもしれませんが、私が考えは一応、宿、日直が廃止されて、代行人員がやるというところでも結構だと思っております。



今経過のお話はわかったけれども、今市において教育委員会で考えておることは市庁議決を代行員として求めて、その方にやっていただく。こういう方向に進んでいく。代行員があればいつでも採用してその学校に置く。こういうふうに解釈していかどうか。それから校地の問題はわかりました。センターの問題ですが、一応お話をございましたが、物件を買おうになつたら云々ということですが、私はこの問題につきましては現在、センターの建設期間中、所管といたしますが、所属といたしますが、それからすでに竣工が来年度の四月ということなので、でき上つた際にどういう所管でどういう管轄で、どういう人事が行なわれるかということを現在、はっきりしておかなければならないと思つておりますが、こういう点についてよくわからないのでお伺いしたいわけでございます。

福祉事務所長（池田亮山君）も答へ申し上げます。

四上年度分につきましては、その年度を予算執行中でございまして措置費の方は精算交付でございまして、年度中でございまして、その年度の分で返還済でございします。

・教育長（押本禧徳君）宿日直の問題でございしますが、ただいまうお話うとおりでございします。

ただ代行員につきましてはしろうとでございします。まず健康診断というふうなものを必ずやっていた。

それから、学校ごとに服務規律というふうなものを定めておけばできないようなことは別として、これは大体基準がございします。で、そういうことで電話とかあるいは火のえり用心とか、かざとよくしめるとか、見張りをするという規定がございします。で、そういうことをはつきりして服務させたい。

と思つうわけでございます。

・助役(小久武男君) 市民センターのことですが、ただいまお話があり  
まゝたうに大体五月頃には工事としては四月いっぱいまで  
ございますが、五月になりますと、完成ということだんだん期  
日も切迫してまいります。ただいま細部々事務分担をい  
たして進行してまいります。今お話うように今夜、こゝででき  
た後の人事とか、貸し付け規定とか、その他々管理規定を  
作るとか、備品の購入計画、それから落成式の準備とか、  
さうにでき上つたものをただちに発足できるようなPR機関  
の調査、こゝういふ幾つかの部門に分けて今準備しております。  
従いまゝ建設委員会におはかりする内容としては非常に  
細かくなりますが、こゝういふものも、具体案ができた次第、委員  
会にもおはかりしていい知恵を拝借したい。  
こゝういふふうに考えております。

一番問題になりますのが、市民センターができてしまった場合に、  
はどこの所管に属するかという問題でございしますが、  
これには内々協議をしております。

建設当初におきましては体育館という一つを考え方でス  
タートした。その後かわりまして体育館と市民館と  
いうことを考え方。一かもその内容は七分。三分が体  
育館。七分が市民会館的な様相を持たせる。という  
ような構想にかわって参りまして、今後体育館ですと  
教育委員会が所管で該構だろうと思ひますが、市民  
館的な要素を多分に含めまして、これを観光の一  
翼にも利用したい。ということになる。教育委員会  
の仕事から離れる面も出てくる。というふうになると  
思ひますので、いろいろ点はいずい、市長と相談して  
はつきりな場合に委員会にはかろう。というふうな考

えておきます。

・二五番（石井正君）宿直問題に就いて終りたいと思います  
が、宿直員につきましても、週一回ということですが、誰んだと  
ころでは月に一回以下という市もあります。京都は四月  
から全廃しまして、その間、責任は全部市が持つという  
ことをはつきり明記して通達をしておきます。

そういう市がほかにもあるかもしれませんが、私、最近聞い  
ところではそういうところですが、県内にも進んだ市が幾つ  
かあるわけでございますが、館山におきましてもこれは文部  
省が週一回が月一回に次ぐ段階にはくるのではないかと  
思いますので、館山は独自の考えで教育委員会が全責  
任を持つて日、宿直員全廃を一日も早くできるように  
要望いたしまして質問を終わります。

・二六番（小柴孝君）私は三点について御質問申し上げます。

一六ページ企画費の中で安房郡市広域行政連絡協議会の負担金として十一万九千円計上げてございすが、額についてとやかく申し上げるわけではございせんが、郡市市広域行政連絡協議会は何回位開かれて、内容がさうつかえなければ三という問題が討議されてゐる位のことはお知らせを願ひたいと思ひます。

それから二ページの農業振興費でございすが、病虫害防除事業費が六万円減税されたこととで、質問したいんですが、今御承知のように松食い虫が相当広がって松食い虫に荒さるるまで、人間の方はあきらめなうか、といった。現在各山を見ると常盤石が松が赤い松になつておる。

松食い虫にやられたことを知らないで、東京からきいた人が、松が紅葉したということを書いておる。三というところが、数年

前からある。この病虫害防除費を減額している。この点ふーぎに思う。従つてこの点所管課長がお考えを聞きたい。

第三点は直診勘定の中う施設管理費、一般管理費、うち需用費が二十三万三千円です。補正されておるわけですが、その中に建物、修繕料として二十万、これは、一年か二年前に新築したものが雨漏りをとするのか、これがもし、雨漏りをするとなると問題があるわけなんです。すが、細かくお知らせ願いたいと思います。

企画課長（本貝茂生君）第一点についてお答えいたします。広域行政連絡協議会は今まで、鴨りを中心とする。長狭地区と千倉を中心とする朝夷地区、銚南地区、三つに分かれて協議を進めて参りまして、三つが結成されました。熊山市は銚南地区に対しては三芳を隔離病舎の問題

と上水道の問題がある。白旗とは館山が観光の玄関口であるとか、館山から水源を求めておるといふこと。

館山は館南地区のブロックと朝夷地区のブロック両方に関係があるといふことで両ブロックのいふ方で館山市は将来態度をきめていくといふことで今まで入っておりません。だが、各ブロックの状況がよくわかりませんけれども、部会は一、二回か二回開かれておるように聞いております。

内容につきましては特にどんあい焼却炉とか、一休処理場とか、そういうものをブロックで共同的に進めようといふ点がおもな協議の内容であるように伺っております。

今回、それを新たに郡市一本化して、この十月から郡市一本化して、この十月から広い安房郡市の中で、そういう一問一題を検討して、いふ方があります。

・農林水産課長（伊藤幸太郎君）第三点につきまして申し上げます。



ここで申し上げます。病害虫防除関係でございますが、これは御指摘の飲食の虫の関係ではないわけでございます。おもに水稻の問題でございます。

・保健衛生課長(綱島善治君)御指摘の建物は昭和三十九年度に建てられました。現在、直営診療所でございます。

・二番(小柴孝君)第一点第二点は了承いたしました。

第三点の三十九年度に建てた建物が九二年で雨漏りする。というは、どういうわけかということでございますが、設計ミスか、施行上のミスか、監督不十分かということになるとは思います。どういうところをどういうふうになおすか。もう少し、具体的に御説明願いたいと思います。

・保健衛生課長(綱島善治君)あの建物はブロッコでございまして、当初のうちにはさほどと申しますか、私就任してすぐに見にいったらございしますが、私自身くわしいことは存じま

せんけいとも、實際問題として雨漏りのすることは事実でございます。それが手術を行なうところでございます。實際問題として手術を行なう際にも、非常に衛生上支障があるというふうなこともございますので、これは技術的な面ではそこまで追求をいたしておりませんけれども、現段階で支障があるというところで、一応予算を計上したわけでございますけれども。

建築課長（池田春雄君）御説明申し上げます。診療所は、ブロック構造の平らな屋根をやっております。屋根はモルタル防水だけなんです。これは、その当時、単価が低くて、アスファルト防水をやるわけにいかない。モルタル防水だけでございます。こゝ雨漏りの問題は、施行時の問題があるわけなんです。これは、期限が迫って早くないと工期に遅れる。仮ワークを早くはずす、ということに多少無理

があつた。手術室の上、小使い室、便所、こゝろにスラブがきて  
おる。工事の関係上、早く仮ワフを落したといふところは無理  
があつた。そのため補修をやるわけでございます。

・二番(小柴孝君)ただ今両者の御答弁でさうだろうといふのは  
普通を考へ方でわかるわけですが、二年位で雨漏りする  
といふのは建築課長の答弁では施行上ミスがあつたのだ  
といふことでございまして、いすれにしても金額が二十万でぞ  
ございます。こゝは二十万は市民の血税を修理でございまして、  
將來のために建築関係すべて関係すると思ひますが、絶対  
に大丈夫だといふことでなく、危ない橋を渡つて結果勝負と  
いふことでは私たちちやうと考へなければならぬ。

おとと建てた家が今年になつて雨漏りして、しやうがないか  
ら修理してくれ。市の建物だから、こゝういふことが言えるけ  
いども個人ではおこる。二十万かけて、完全にならないとまた

すぐ雨漏りがくる。こういうことではいけないので、よく考え  
 になつてほしいという線であつていただきたい。

要望いたしまして終了します。

・四番(遠山ヨネ子君)ニ五ページ日本刀鍛錬所建設補助金に  
 ついてちよつとお聞きしたいと思います。

こういう補助金を出すについていささつ、約束があつて、  
 こういうあやまーたか、実は館山市が文化的なことに補助  
 金を出さるゝになることは非常にいいことで、かつて八幡に  
 つづゝ織り、遠藤さんがおつて、非常に不遇な晩年を  
 迎えて名前だけ知つておりまーたが、館山市が文化を  
 こういうふうに残してゆくことはいいと思います。こういう  
 ふうに持つてゆくいささつが知りたい。

それから、石井議員が宿、日直り問題でお聞きになつて  
 私もう了解いたしまして、たが、その節、教育長が答弁に三

百二十人分という数が出たように思いますが、一昨日の説明のときにこの費用は六百二十人分ということをお聞きしました。ところが、その差はどうして出たか。私に聞き違いかもしれません。が、そこをもういっぺんお聞きしたい。また要員について要員を雇った場合に予算がどの程度で学校や管理が今までのように行なわれるか、気にかります。

それから、要員の人物相当を考えて選考していただかなければならないと思いますが、教育長さんはどういうお考えで選考に当りますか。それを聞きたい。

それから、市民センターの建設費のこととでここにあるような委託料。こういうものは私当初予算に参画しておりませんから、わかりませんが、どうして当初予算に組み込まなかったか。こういうことは次々出てくるのではないか。これから見通しは、どういうふうに考えておられるか。

それから先ほど来消防の問題が云々ございましたけれども  
石井議員さんがおっしゃるようなように私たちが市民から  
考えましても公けい消防署がこういう事故を起こすこと  
に対して非常に不安を感じますということとは消防署  
としては大変な責任ではないかと思う。私は揮転とか  
事故に対しては専門的な知識がありませんので、そういう  
追求はできませんがもういっぺん消防長さんにこの問題に  
ついて公けい機関がこういうことを起こしたということに対  
してくだいようですけれども責任ある答弁を具体的にどう  
とむづかーいでしょうけれどもそういうお答えを願いたいと思  
うんです。以上。

・社会教育課長（源間利一君）日本刀鍛錬所建設補助金と  
センターの委託料についてお答え申し上げます。

日本刀鍛錬所の建築でございますが、これは熊野の安

布里におられます石井昭房さん、計画しております。鍛錬所建設でございます。

当初石井昭房氏のお持ちの日本刀鍛錬の技術が館山市の文化財審議委員会の調査の結果、市の指定という形になりまして、当教育委員会で館山市の文化財申請をいたしております。

果文化財室等の調査、研究の結果、ニハダの技術を市指定にとめておくのもいいという事で、果指定として妥当であるという見地から千葉県の指定を受けて今日に至っております。

もっと具体的に申し上げますと、かつてあの方がその技術を身に付けらる経過の中で現在より方が弟子に当るべき方が国宝級の重文の指定を受けておるという事実がわかったのでございます。しかしながら当地の安布里

で国が重要指定という事は、果う文化財室でもその技術は考えておりますが、国が重要指定という段階に持つていくことまでいかないでございます。一か一ながら、市の文化財審議委員会、果う文化財室といろいろ協議する中にせうかく、技術を後世に伝承して参る場として鍛錬所、建築という事について、果と市と助成して、それを後世に伝えるべきではなからうかというふうな話があったわけで、本人自身もこれを建築を進めて参りたいということ、でいろいろその経過はあつたのでござりますが、結果的に先般申し上げましたように、鍛錬所の建築費としまして、百二十八万円、それからでき上りまして、日本刀を広く市民に見ていただく、また、そのひとふりが、どのような制作工程をもつてきたえらうてくるかということ、で展示場を建築したいということ、で百四十万円、なお、それから刀を



きたえる材料の倉庫でございますが、三十二万二千円計二百九十三万二千円の経費をかけて技術伝承の場として、三棟をぜひ建てたいので、応分の補助を願いたいという申請があったわけでございます。

一かーながら、この二百九十三万二千円総額を指定の対象にするという事についてはいろいろ研究が進められたいわけでございますが、これはまた県と文化財室と協議の結果、鍛錬所や百二十万月に限って補助の対象にということと、県として二分の一市として二分の一ということから、六十四万円を是非お願いしたいということでございます。

それから第三点の市民センターの常駐監督委託料でございます。これは当初予算に組み入れるべきだ、おっしゃるとおりでございます。

予算編成時点におきまして社会教育課、私の不在番りの長

めにそれが一括百五十八万円という一ことで計上。今日に至るまで  
 リマーンなので、二二で改めて更正をお願いするものでございま  
 教育長（押本穂波君）曰、宿直の問題でもう一回御説明申し  
 上げますが、私は人数について申し上げませんで、ただ、庶務  
 課長から聞きますと、宿直と日直が延八百三十二回分。そ  
 の中で宿直が六百三十九回、日直が百九十三回。そういう数  
 字だといっております。それから代行員の採用方法でござ  
 いますけれども、これは日直乃至は宿直という学校りき  
 わめて重大な当直をするわけでございます。また、遠くの方  
 から人を採すというふうなことで募集してテストするとい  
 うのはこともできにくいと思っております。校長さんを中心に地  
 区の方々やPTAの方々とよく相談して、実直な年輩の方  
 方というところが見当をつける目標であらう。こういうこと  
 でそういう方を委員会の方に報告するようにと。一ことで

話してあります。中には用務員自身が女の方でございます  
場合、その主人に宿直をやってもらうというのを申し出た  
学校もございます。そういうことで慎重に採用については、  
していくように学校に話しております。

・消防長(星野清之助君)お答えいたします。浪山議員さん  
の申し込まれるように市民のいわば、代表的な存在であるところ  
の消防自動車等があり、そのような事故を起すことという  
ことについてはどうも不安をお感托になるということは、私ごも  
つともな考えのうに感じております。いろいろのこととはわか  
つたが、当面、どういうことで今後あのようなことにならないように  
するかどうかという御質問でございますが、まず、第一に勤務  
体制の問題があると思います。

次は消防自動車、完全整備という問題、それから交  
通法規を確実に守るということ、それが消防自動車でござ

づいまいうともいわれる。完全適用がないということでは、  
 運転することは許さないわけでもうまいて、法規通り  
 運転する、いわゆる安全運転に徹すること。

それから、士気の問題でございます。いたずらに士気を鼓  
 舞することは不適當でございますが、しかし、事故があら  
 誇大に意識して運転するとき、ちうなをうながすことも  
 いかまた不適當でないと考えます。

そういう意味からいまして、士気の高揚、それから人間関係の  
 問題が非常に大切だと思ひます。これをスペースに持つてい  
 ますことが、やはり全体う士気う高揚にもなります。ひいて  
 は仕事自体もスムーズに運ぶゆえんにもなるうかと思ひます。  
 その他いろいろございますが、そういうことを十分考えながら  
 やつていかねければならぬと思ひます。

それから、先ほど御激励の言葉がございまして、たが、車

両の整備につきましては現在も二名整備士がおりまして  
毎日整備をいたしておりますとともに車両の運転に従事  
いたします消防士におきましてみずから責任で点検整  
備しておる。こういう感覚でできるだけの努力をはらう所  
存でございます。なお先般も二十九日でございまして、全員  
集めまして特にこの間の問題に若干触れながらよく市民  
の期待にこたえるようにやってくれということでお願いなよう  
なこともございますので付け加えております。

九番(三幣勇君)十五ページ十九節の国際ワタリー年次大会補  
助金五千万について二、三お聞きなさい。この補助金に対して  
貴重な市費を使うことの意味と果たしてこれが適切か  
どうかという点。一昨日の市長さん及び課長さんのお話の  
中で市の観光行政に非常にプラスになると思ふというお  
話もありました。これは商工観光課の予算に組み入れる

べきではないか。もう一つ、他の団体に対しては、けり今後、こ  
ういうことが起きた場合に、そういう措置を取るかどうか。  
また五十万の補助金に対して、みかえり金がそれ以上ある  
というお話もありました。その点について、みかえり金が確  
実にくるのか、どうかという保証があるのか。この三点につ  
て、お伺いいたします。

・市長（本間護君）地区ロータリー大会に対して、五十万円、補  
助金を出すことでも願いたいわけですが、これは地区  
大会が開かれるときには、どこでもこういうことでやって  
おられるようですが、ロータリークラブというのは、職業を通じ  
て社会に奉仕するという奉仕団体です。ここでは、千八百人  
位の方がいらしまして、半分以上、館山市に宿泊されるそう  
です。これが奉仕団体というふうな関係もございまして、  
今までのところでは、どこでも必ず、について五百円、つ記念事

業をやつてもらいたいということでは金を寄付して下さるそうです。  
これは大会委員長の大西さんから、或いは川名カバナーからも  
話がありまして五十万は少く多過ぎるのではないかと考えて  
おられますが、それ以上の金が確実にくるかどうかということでごさ  
います。そういうことでよそにならうて、ここで千七百人の方々が  
一晩泊つて会をやつてくれることは、観光館より紹介の上から  
しても、またいろいろ金がかかるわけですから、そういう意味  
においても、よそ並みより五十万、三万ということでは願ひておるわ  
けです。それから、こういう会が行なわれた場合には補助をど  
うするかというお尋ねのようでございますが、これは大体そう  
いうことが予想されておる会に対しては、予算であらうかとい  
ふので、準じて助成をしておるわけでございますが、とにかく大  
きなお金を開くという事になれば、市としては、それだけの金も落  
ちますし、観光面からしてもいいわけですし、金額の大小は

問わす、そう様子によつてやりたい。全部ということでも、  
ございませぬ。その性質によつてある。こういうことでもござ  
います。

・秘書課長（小倉澄男君）ただいま市長から答弁がありまゝた  
はかになぜ観光予算に組まなうたか。これについてお答えいた  
します。

観光予算に組むというその前に国際ロータリーの地区年次大  
会という性格は観光のためではございませんので、一般管理費  
の中に組んだというところでございまして、これは市長から言われ  
たとおり、この大会が熊山市に及ぼす効果は観光的にプラ  
ス、観光はその後、時点に起ることでございまして、あくまで  
ロータリー大会というの是一般管理的な性格ということでも  
こちらの方に組みまゝた。

・二五番（田村源治郎君）教育費についてお伺いしたいと思ひます。



二四ページ、学校器具費十一万六千円、給食用備品費一万六千円、学校器具費十八万四千円、減、教材費十八万四千円、追加、果体、参加補助金三十万、産業教育設備費も十五万削る。当初予算は慎重審議として、必要がなければ、始めから減さなければいい。三月から九月まで、何カ月たつておるか。それほど教育の備品は複雑化しておるか。補正予算はこれでいいか。この補正予算の組み方に対して教育長としてどう思うかに考えているか。

・教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）お答えいたします。学校器具費の十八万四千円を更正しまして、教材費の方に十八万四千円持ってきた。この数字は、教材費の国庫負担法に基づくものが、当初考えていたものよりも補助率が変わりまして、どうしても学校器具費の方から教材費の方に回わらないと補助関係の金額が不足するという。

ことで各學校の關係をよく再調査いたしまして、こゝうな措置をいた次第でございます。

三五番(田村源治郎君)補助が少なからうから、ええんだ。たういまいをいた。県体の参加は補助金がなければ、ないか。學校器具費が房南中學校の印刷費にばけたんだ。どうしてもほいから予算に組んだらだ。

十八万四千円は県の補助がないから、十八万四千円追加すべきだ。こゝうなものが教育に幾つもある。こゝは最後の予算でなく九月の予算に対して、正当な予算の組め方かどうか。はつきりお答えいただきたい。

・教育委員会庶務課長(千場伊左エ門君)お答えいたします。県体三万というのは教材費關係を更正いたもうとは別に、こゝだけを追加お願ひするというものでございます。

それから房南中学校関係、購入費もこの別に九万八千  
円を追加願いますという二とでございまして、この十八万四  
千円を更正して教材費に十八万四千円に持っていった。  
こゝとは別のものでございます。

・二五番(田村源治郎君)九万八千円は新たに組んだというの  
はわかっている。十八万四千円がいなくなつた理由をいつてもら  
いた。

・教育委員会庶務課長(干場伊右エ門君)器具費から教材費  
の方にえな理由でございしますが、教材費の方の補助金  
こゝはある程度文部省から額が示されてくるわけでござ  
います。が、その額に満たないものがある。であります。学  
校器具費の方の関係を各学校とも調査しまして、教  
材費の方に回してもさうつかえないものを各学校で調べ  
てもらつたわけでございます。そうして回し得る限度のもの

十八万四千円を教材費の方へ回わいた次第でございます。  
 ・ニ五番(田村稔治郎君)今度の補正予算になって回わいた  
 当初の組み方がずうろつ過ぎていた。三月に組んで九月で  
 しょう。学校が始まって五ヶ月位に達してない。この予算  
 というものは信頼できるかということを聞きたい。

必要として組んだものは効果一〇〇％に使っていただきたい。  
 教育に幾つも三角がついておる。

・教育委員会庶務課長(千場伊左門君)年度当初において国庫  
 負担関係のものが文部省を通じて県に示されたものが  
 がある程度確定したものでなくて、予定したもので示され  
 ておるわけでございます。私の方としましては、その県が指  
 示に基いて予算を組んでございますが、今度文部  
 省から教材費、国庫負担法関係のものもが確定して  
 参りましてそれに基いてこう更正を行なった次第でござ

います。

・一八番(安西益男君) 一点だけ簡単に先ほど教育費の問題で教育長さんから、需用費は四百何十万増額いたというふうに伺いました。それは何年度だったのですか。

・教育長(押本禮逸君) それは四十一年度予算と四十二年度予算とを比較してでございます。

・一八番(安西益男君) 四十一年度、四十二年度の比較は、小・中学校とも需用費は減額になっておたというふうに覚えておりますが、そうではございませんか。

・教育長(押本禮逸君) 減額してありません。

・一八番(安西益男君) 間違いたく増加してある。三という二とでございますわ。

・議長(吉田勇治郎君) おはやりいただきます。本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。さて本案は原案通り可決、確定をいたします。  
暫時休憩いたします。

午後 三時四十八分 休憩

午後 四時二十分 再開

議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。  
日程第十一 請願書を議題といたします。

(書記朗読)

議長(吉田勇治郎君) 紹介議員より説明を求めます。

(五番議員 登壇)

五番(藤田益治君) たいへん請願をいたします。般形漁港地先

海面における消波用防波堤築堤に關しての御説明をいたします。

当船形漁港は歴史的にもその名を残す第三種漁港として築港の一途をたどつて今日に至つております。

關係機關の御努力により第三次整備計画も着実に進んで参りまゐりますが、当港の港口は南西に向いておるがために台風時及び強風時には港内より波浪が強くなり、ときには水揚げ荷さばき場の突堤が破壊されていることもあり、漁船の水揚げ・保留も不可能な状態であり、ことに回航避難する漁船もその数をまゐておる現状であります。又漁業協同組合はこゝの問題に真剣に取り組んでおる次第でございます。

漁協執行部にあつては県及び市に陳情または請願を数多く行ないました。千葉県漁港大会にも議題を提

果したこともあります。さらに昨年は遠く青森県八戸港の消波用施設の視察を行なつてこれが築堤の役立つことを思ひ努力しております。

なお本年六月において館山、船形の合併漁協の経営計画にもその施設整備事業方針として取り上げておるところであります。そこで、これが消波施設として館山市船形

一四四大番地地先に船形漁港西防波堤突端より、二百七十

度距離三〇メートル、水深六メートル乃至七メートルの地

点に長さ七五メートル、幅二〇メートルの鉄筋コンクリート

製で防波堤を築堤していただければ、漁船の入港は、

旧に倍と盛んになり、現水揚げ量の四億五千万円を

位増で十億円になるといふても決して過言ではありま

せん。そうして全国漁船の利用度も活発になることは

もとより地域産業開発に貢献するところ大なる



ものであると思わします。

せひとも防波堤築堤の趣意に御賛同願いまいて  
満場一致御採択くださいますことをお願いいたしまして  
説明にかえます。(拍手)

議長(吉田勇治郎君)本請願書に關しまして御賛同疑ご  
ございませんか。

おはかりいたします。

本請願書も満場一致採択するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本請願書  
は満場一致採択されました。なお申し上げます。

本請願書の処置置につきまゝては速やかにその意を付  
し市長に送付いたします。

おはかりいたします。

ただいま市長より議案第五十四号人權擁護委員候補者ノ推薦について同意を求めらるゝて、議案第五十五号、館山市教育委員ノ任命について、議案第五十六号、館山市監査委員ノ選任について以上三議案が提出さるゝこと、この際、この三議案を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よつて日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。議案を配付いたさせます。

（議案配付）

議長（吉田勇治郎君）議案の配付漏れはございませんか。配付漏れなしと認めます。

議案第五十四号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十四号 人権擁護委員候補者の推薦について

同意を求めるについて

・議長(吉田勇治郎君) 市長の説明を求めます。

(市長登壇)

・市長(本間讓君) 議案第五十四号の人権擁護委員候補者の推薦をいたさないと思ひます。

人権擁護委員は定員が七名でございまして三年間の任期があつたわけでございすが、ここで議會が御承認を経た方を法務省に申し上げて法務大臣がこれでよろしいということになると命令が交付されるということになつておるわけでございます。

七名のうち四名の方は、この間やつておる方々で三名の方を新しく任命したわけでございます。四名の方は小滝新司君、

宮崎中君、後藤ゆき君、小谷無律君、こゝ方は、再選ということに相なるわけでございます。

それから新しく、正木積君、小澤実君、長崎喜久枝君、こゝ三名を新しく推薦したいと思うわけでございます。

正木君は農家組合長とか、区長とかやう非常に人格的にもきわめて立派な方であるわけでございます。

なおまた小澤実君におきましては千葉県師範学校を卒業して専攻科をぬまして学校長を努めまして現在、堂の下、区長をやつておる方できわめて立派な方でございます。

長崎喜久枝君は安房南校を卒業しまして東京美容専門学校を卒業して現在、千葉県美容環境衛生常任理事、同館山支部長等をやつておる方できわめて人格識見とも立派な方でございます。以上七名の方を御

推薦申し上げる次第でございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を原案通り可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定されました。

議案第五十五号を議題といたします。

（書記朗読）

議案第五十五号 館山市教育委員会委員の任命について

議長（吉田勇治郎君）説明を求めます。

（市長登壇）

市長（本間讓君）館山市教育委員会といたしまして、福岡保徳君を御推薦申し上げるわけでございますが、福岡君は県立安房水産学校を卒業されました。市会議員もおやりに

なる一教育委員として補任者と考えまして推薦申上  
げるわけでございます。よろしく願ひいたします。

議長(吉田勇治郎君)おはかりいたします。本案を原案通り  
満場一致同意することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は  
満場一致同意することに決まりました。

議案第五十六号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第五十六号 館山市監査委員の選任について

議長(吉田勇治郎君)説明を求めます。

(市長登壇)

市長(本間謙君)館山市監査委員につきまして佐々木一男  
君をもつとも適任者と思ひまして、皆さま方々同意をお

願ひするわけでございますが佐々木君は金沢の高等工業を卒業されました。その後、日産自動車等に勤務され、現在佐々木商會を経営してゐる方で監査委員として、もっとも適任ではないかと思ひまして、皆さん方の御同意をいただきたいわけでございます。

議長（吉田勇治郎君）おはかりいたします。本案を原案通り同意することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よつて本案は満場一致原案通り同意することに決まりました。

おはかりいたします。本定例会に付議されました議案は、すべて議了されました。よつて會議規則第七条の規定によつて本日をもって本定例会を閉会することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

よつて本定例会はこゝにて閉会することに決定いたしました。

午後四時四十三分 閉会

今日の会議に付いた事件

一 議事日程に加えて

一 議案第五十四号 人権擁護委員候補者の推薦について同

意を求めるについて

一 議案第五十五号 館山市教育委員会委員の任命について

一 議案第五十六号 館山市監査委員の選任について

出席議員

吉田勇治郎 石井輝久



鳴田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣勇

西村真次

菊井敏博

小柴孝

山田教宇

遠山ヨネ子

石井正

五十嵐昇

江田徳太郎

安西益男

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

田村源治郎

秋山六三郎

安次徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口康

一 欠席議員

島野茂樹郎

一 出席説明者

第一日目に同ト

一 出席事務局取員

第一日目に同ト

昭和四十二年十月二日

右会議の文等を録しここに署名す

館山市議会議長 吉田 勇 名

同 署名議員

同

伊賀 多朗

